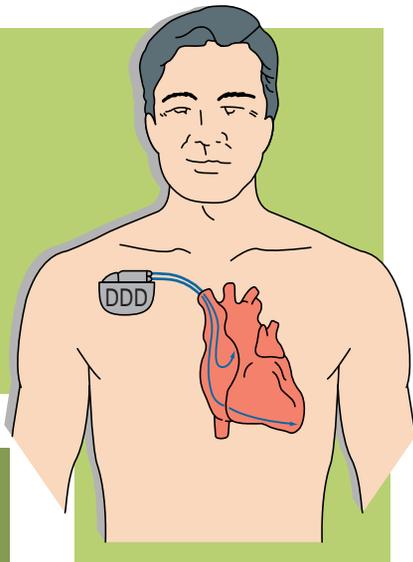
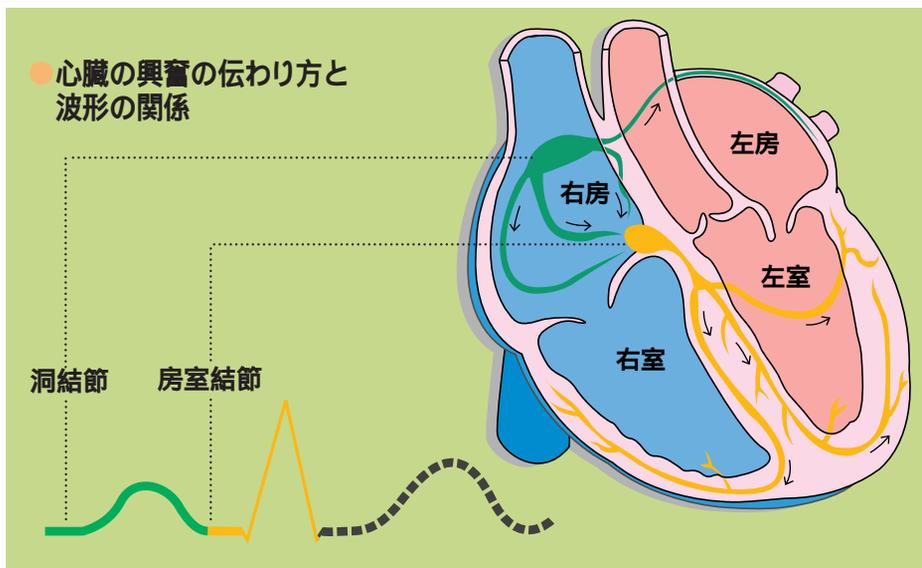


不整脈と

ペースメーカー治療



DDDペースメーカー
ペースメーカーは機種や機能を表現する目的でアルファベットが使われており、DDDはその一種です。

心臓は一日に約一千万回収縮と拡張を繰り返しています。その拍動リズムは、特殊な心臓の筋肉の集まりである洞結節から発生する電気的な刺激(興奮)によって起こります。この洞結節がいわば発電所であり、電線に相当する伝導路を伝

わった興奮が心房や心室を収縮させて、全身に規則正しく血液を送り出しています。ところが、この興奮が何らかの原因で正常に伝わらなくなった状態を不整脈と呼びます。

ペースメーカーという小さな機械で治療できる不整脈は徐脈です。徐脈には伝導路が障害されている房室ブロックと、洞結節自体の動きが悪くなって規則的な電気刺激が発生しない洞不全症候群があります。

不整脈の種類には、大きく分けて脈がぶらぶらと遅くなる頻脈、脈が遅くなる徐脈の二つがあります。また、不整脈には治療の必要のないものから危険なものまでいろいろあります。ペースメーカーは、ペースメーカーが効果を発揮します。ペースメーカーは電池と発振装置、リード(導線)からなる人工臓器で、障害されている洞結節、伝導路の代わりに電気的な刺激を心筋に与えて、拍動リズムをコントロールします。

日常生活の注意



電装品や溶接器、また高出力の送信機、高圧電線の下などで、脈の異常を感じた場合にはすぐに離れるようにしましょう。

最近、携帯電話が普及していますが、日本医用機器工業会、ペースメーカー協議会のガイドラインでは、「二センチ以上離れる」としてあります。ですから、隣りの人が使っていたからといって心配する必要はありません。患者さんの中には携帯電話を利用していても、ペースメーカーの種類によっても違います。心配な方は病院へ携帯電話をもって行き、ペースメーカーの作動をチェックしてもらいましょう。

ペースメーカーは磁石や磁気により近づけすぎると誤作動を起こすことがあり、動悸や不快感が生ずることがあります。身の回りには家庭電気製品は心配ありません。電磁波で調理する家庭用電子レンジでも抱えるほど密着しなければ影響ありません。影響があるのは、強い電磁気を生じさせる大型の発電機です。

進化する 小型ペースメーカー

ペースメーカーが発明される以前は、重い徐脈の患者さんは寝たきりの生活を強いられ、亡くなることも多くありました。一九三〇年代から試作が始まり、一九五七年に身体の外に付けるペースメーカーが開発され、一九六〇年には皮膚

の下に装着する(植え込み式)ペースメーカーが初めて使用されました。その後急速に技術が進歩したことにより、どんどん小型軽量化し、高度な機能をもつたペースメーカーがつけられるようになりました。現在は、二六g程度の軽量なものが使用されており、患者さんがほとんど生活に不便を感じない程度になっています。

脈をとる 習慣をつける



患者さんにとってペースメーカーは一生のおつき合いです。国ではペースメーカー使用の患者さんに身体障害者手帳を発行しています。

日常生活は健康な人と同じようにできますが、磁石、電磁気には注意が必要です。そこで日頃から脈をとる習慣をつけておくといでしょう。脈が異常なとき、何か回りに電磁気を帯びた原因となるものを探る手がかりにもなります。そうした変調があったときは、すぐに医師に相談してください。



ペースメーカーが開発されてから、患者さんがほとんど生活に不便を感じない程度になっています。手術も局所麻酔による簡

日本心臓財団より

日本心臓財団は、わが国三大死因のうちの心臓病と脳卒中の制圧を目指して、一九七一年に発足いたしました。当財団は、研究に対する助成や予防啓蒙、また世界心臓連合加盟団体としての諸活動を通して、心臓血管病の予防・制圧に努めております。当財団は皆様の「寄付」により運営されています。どうぞ皆様の協力を願ひ申しあげます。

財団法人日本心臓財団
〒一〇〇五 東京都千代田区丸の内三〇四 新国際ビル
☎ 三三三三 一〇八
ホームページアドレス <http://www.jhf.or.jp/>